

平成29年度第8回 医療法人社団主体会倫理委員会 会議記録の概要

開催日時	平成 30 年 2 月 26 日 16 時 ~ 16 時 30 分
開催場所	小山田記念温泉病院 第3会議室
出席委員	毛受、北村、原、山中、伊藤、浅野、清水、坂(敬略称、順不同)
新規研究計画の審議	
申請者	後久 由貴
研究名	早期の歩行自立と関連する因子の検討
研究内容 要旨	回復期リハビリテーション病棟において歩行の自立は必要不可欠な目標で、歩行自立の可否は在宅復帰の可否に大きく関わるとされている。そのために早期に歩行を獲得することは、廃用症候群や認知症の進行予防に有用で、回復期病棟での在院日数の短縮やADL向上に繋がると考える。これまで回復期入院患者の退院時の歩行可否に関わる因子や検討した研究は多くあるが、早期の歩行自立に関わる因子について入院時評価から予測した研究は少ない。そこで本研究では回復期入院患者の入院時評価より早期歩行自立に関わる因子を検討し、早期歩行自立に向けたアプローチの一助とすることを目的とする
審議結果	承認 2017-28
参考	「侵襲を伴わない研究であって介入を行わないもの」であり、「既存試料を用いて、集計・統計処理を行うもの」と考えられたので、書類審議を行い、その結果承認とした。
新規研究計画の審議	
申請者	川合 圭成
研究名	視線を用いた認知機能および意思表示能力に関する研究
研究内容 要旨	症状が進行し、自発性や反応が著しく損なわれた変性性疾患の患者の認知機能については、これまで測定方法が確立されていないために、ご家族や介護者の方々の主観的な印象に依るところが大きく、実際にどの程度の能力が残されているのか、あるいは意思を表出することが可能なのか明らかではなかった。そこで本研究では、アイトラッカー(視線計測装置)を用いた実験心理学的手法によって、意思表示が困難な高度認知症患者の残存機能の評価を行うことを目的とする。このような患者の残存機能を測定することによって、患者の意思決定を支援するとともに、ご家族や介護者の方々の患者理解の一助になることが期待される
審議結果	承認 2017-29
意見	「共同研究期間において倫理委員会の審査を受け、その実施について適当である旨の意見を得ている場合の審議」であり、「研究計画書の軽微な変更にかんする審議」と考えられたので、書類審議を行い、承認とした。
参考	本研究では、介護老人保険施設みえの郷、小山田老人保健施設、小山田特別養護老人ホーム、第二小山田特別養護老人ホームから試料、情報の提供を受け、共同研究期間である中央大学に試料、情報を提供する。

新規研究計画の審議

申請者	松葉谷 孝司
研究名	回復期病棟患者における退院後の転倒に関連する因子の検討
研究内容 要旨	回復期リハビリテーション病棟退院後に転倒される患者をしばしば体験する。転倒関連因子として下肢筋力やバランス能力、Timed Up and Testなどが報告されており、地域高齢者を対象にした先行研究では転倒の予測因子としてファンクショナルリサーチ見積もり誤差と転倒恐怖感が関連すると報告されている。今回は自宅退院する回復期入院患者を対象に、上記にある評価や身体機能などの評価を行い、退院後の転倒予測が可能かどうかを検討することを研究目的とした。そして、転倒予防の一助となるように研究を進めていきたい。
審議結果	差し戻し
意見	電話による聞き取りで転倒回数、ADLなどを正確に聴取できるかどうか疑問である。ADLなど一版の人にわかりにくい略語には解説を付ける。 資金源、利益相反について記載する。 通常の診療を超える医療行為を伴う研究ではなく、研究対象者への研究実施後における医療の提供についての記載は不要である。 侵襲を伴う研究ではなく、介入を行わないので、モニタリングは不要である。